



地域生協部会では沖縄視察研修をおこないました。

地域生協部会では3月10日～3月12日（日）に沖縄へ視察研修に行ってきました。沖縄は77年前の沖縄戦により、多くの一般市民の命が奪われ、戦後はアメリカ軍政下で抑圧された生活を送ってきました。日本返還後も、広大な米軍基地を抱える状態が固定化され、人々の生活が脅かされています。今回の視察研修では、住民を巻き込んだ地上戦の歴史と、米軍専用施設が70.28%が集中する沖縄の現状を学び、現在の沖縄における諸問題や、これからの平和をめぐる課題について考えあうことを目的としています。

■視察先

3/10（金）ひめゆり平和祈念資料館・^{かかずたかだい}嘉数高台公園

3/11（土）^{はえばる}南風原文化センター・糸数アブチラガマ・辺野古視察

3/12（日）チビチリガマ・シムクガマ・道の駅かでな・コープ沖縄店舗

■内 容

地域生協部会では沖縄の平和を学ぶために3月10日（金）～3月12日（日）の日程で沖縄の戦跡および米軍基地の状況の視察をおこないました。

1日目は、到着後、ひめゆり平和祈念資料館を訪問しました。証言ビデオ「平和への祈り～ひめゆり学徒の証言」と映像には納められなかった体験者のエピソードなどを説明員に伺いその後館内を見て回りました。

次に、世界で一番危険な基地と呼ばれる普天間基地を一望で



展望台から普天間基地を見る

ない状況が見て取れました。

またこの公園は旧日本軍が2週間にわたり米軍と攻防を繰り返した場所でもあり、日本各地や朝鮮半島出身者の慰霊碑などもありました。

ける、嘉数高台公園に行きました。実際に米軍機が離発着するところは見られませんでした。町を二分するように滑走路が伸びている状態や、滑走路のすぐ脇に学校がある様子などが見られました。かつて米軍機による事故がありましたが、いつ起こってもおかしくない状況が見て取れました。

ひめゆり平和祈念資料館





南風原文化センター

2日目の午前中は、南風原^{はえばる}文化センターと糸数アブチラガマを訪れました。南風原文化センターでは、沖縄陸軍病院南風原壕群 20 号に入壕しました。こちらは、昨日説明を聞いたひめゆり学徒隊が、傷病兵の世話をするために派遣された病院です。実際に彼女たちが移動した道や過ごした壕の内部を見るとその過酷な状況がとても現実味を帯びてきました。

糸数アブチラガマは、糸数集落の避難指定壕でしたが、のちに南風原陸軍病院の分室、日本軍指令室などにも利用され、軍医、看護師、ひめゆり学徒隊のほか 600 人以上の傷病者などが収容されていました。その後の撤退命令で傷病兵と住民が取り残され、8月22日に投降し、壕から出ていきました。壕の中で、懐中電灯を消し当時と同じ光

の全くない真っ暗な状態を体験しました。午後は、辺野古の基地反対運動の現場を、元生活クラブ職員で沖縄県出身の上間さんに案内してもらいました。やはり運動の背景には 70 年以上前の沖縄戦での甚大な犠牲があり、沖縄には戦争に関わるものは不要という強い思いがあるようです。住民の中には莫大な補償金をもらったため反対運動には関われない人もいるなど、政治が住民を二分しているそうです。沖縄の基地問題の根深さを感じました。

最終日は、ホテル近くのチビチリガマ・シムクガマの 2 つ

ガイドさんの手の先には海面がみえないほどの米軍が、上陸してきたビーチがあります。



シムクガマ内部へ

の窟を見学しました。同じ読谷村内にある 2 つの窟ですが、チビチリガマは避難した住民の多くが捕虜になることが恥という教えにより自決などで命を落とし、一方シムクガマではハワイ帰りの住民が捕虜になっても生きることを説得し全員助かったという明暗が分かれた窟です。チビチリガマには未だ数多くの遺骨が残っており、遺族の意向により入壕することはできません。

この後、道の駅かでの展望デッキから嘉手納基地を見て、コープ沖縄の店舗に立ち寄り帰路につきました。

参加者からは、歴史を知りそのうえで色々な説明を聞きながら視察できたので、沖縄戦の悲惨さや、そこから続く基地問題など点で知っていた事象が歴史の繋がりとして理解が進んだ。生協として沖縄の問題をどう伝えていくかを考えたいなどの声がありました。

糸数アブチラガマ



辺野古で説明聞いているところ



沖縄co-op

以上